

琵琶湖北湖沿岸および内湖におけるホンモロコの産卵状況と水位の影響

寺井章人

1. 目的

ホンモロコは水面付近に産卵を行う特性を有しているため、水位低下による産着卵の干出死亡が危惧される。当場では産卵状況と産卵期間中の水位低下の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2 地点)と周辺内湖(2 地点)において産卵調査を過去から継続して実施しており、2024 年度も同様に調査を実施した。

2. 方法

琵琶湖沿岸(大津市小野、長浜市延勝寺)と周辺内湖(西の湖、伊庭内湖)の計4カ所において、約50~100mのヨシ・ヤナギ帯で、2024年3月中旬から6月下旬まで原則1回/週の頻度で産卵状況および調査定点での水深(現場水深)を測定した。調査時の産卵状況および次回調査時の現場水深から、ふ化までの期間、主に水中にあったと推察される卵を生存卵、主に水面上にあったと推察される卵を死亡卵、それ以外を不明卵として評価した。

3. 結果

4月10日の荒天により産卵基体が喪失した大津市小野を除き、産着卵は4月中旬から6月中旬頃まで確認された(図1~3)。内湖で産卵が早く、北湖の北部(長浜市延勝寺)は産卵が遅い、例年と同様の傾向が確認された。

例年5月下旬から6月上旬にかけて連続した琵琶湖の水位低下が見られるが、本年は産卵盛期がやや早く、長浜市延勝寺での産卵盛期(6月12日)が水位低下の終期とわずかに重なったのみであったため(図2)、全体として例年よりも死卵割合は低かった。年により産卵状況は異なり、水位低下による影響の程度に差が生じることから、今後も産卵状況のモニタリングを継続していく必要がある。

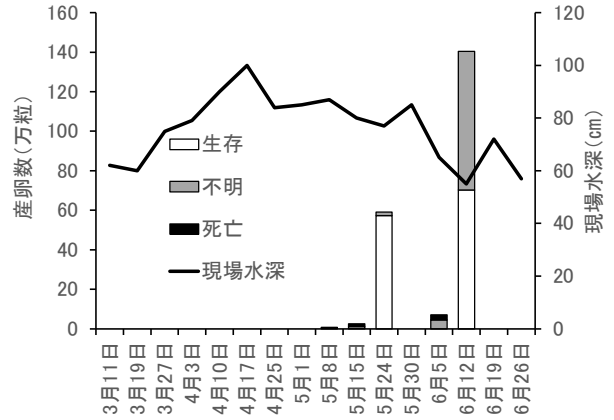


図1 長浜市延勝寺における産着卵数の推移

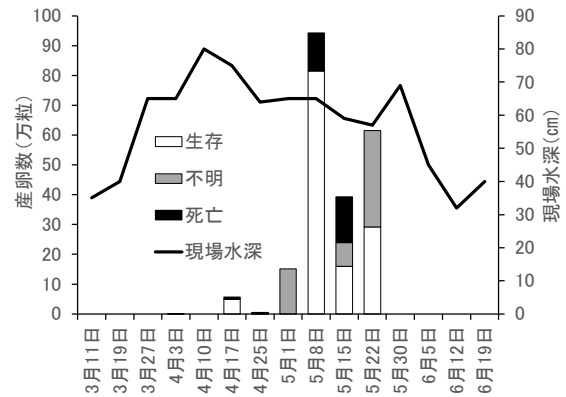


図2 西の湖における産着卵数の推移

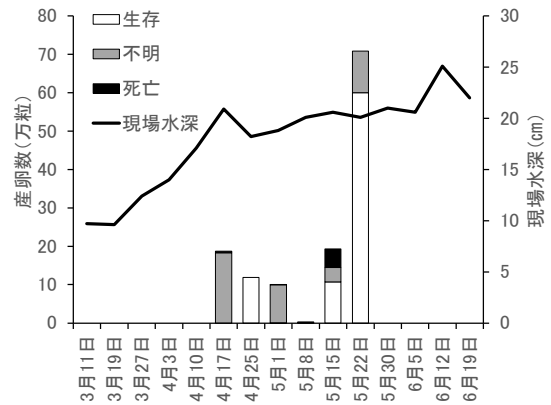


図3 伊庭内湖における産着卵数の推移